

師走の声を聞くと、いよいよ本学の年間行事最高峰「茶道大会」に向かって、学内中が突進し始める。佐世保駅近くのデパートとホテルの二つの会場で、千人近くお越しくださる地域の方々をもてなすため、学生たちによる懸命のお点前練習ともろもろの準備が始まるのだ。茶道は、亭主がただお茶をたてて客人に振る舞うというだけでなく、その場の空間をつくり上げるためのさまざまな脇役―茶わんや棗(なつめ)などの道具類、菓子、掛け軸、花などに支えられて成り立っており、そのすべてに学生たちが関わっている。

8年前本学に赴任するまで、私は、茶道はもちろん華道も柔道も全くたしななだことがなかった。

ところが本学の教育目標の一つは「日常生活に茶道の精神を取り込み、真の教養が身につく教育を行う」ことである。そのため、ほとんどの教職員がアシスタント

返事に、気軽にしかけた私が甘かった。特訓初日にピアノ室の隣にあるその先生の研究室に入った途端、くらくらと目まいがして気絶しそうになった。こちらは袱紗(ふくさ)さばきなど、どこでも練習できる基本的な所作を教えていただくだけのつもりで出向いたのだが、何とそこには床に一枚の畳が運び込まれ、釜までが準備されていたのである。その後の特訓の厳しさは記すまでもない。

この茶道大会も今年で35回目を迎える。本番に向けて、必死に練習する学生たちを見ていると、今でもあの時の特訓で味わった快感にも似た充実感を思い出す。それは、最後の1%の努力は、それまでの努力の数十倍にも数百倍にも匹敵する、という事実を知ったことだ。人をもてなすということの一つは、自身の努力の証しを披露することなのかもしれない。

(長崎短期大学教授)

努力の後に見えるもの



こ小 嶋 栄 子



として「茶道文化」の授業に携わり、お点前指導等を通じて学生たちの人間形成に一役かっているのだ。さあ大変、週に1度、教職員だけの自主的茶道研修があるとはいえ、とてもそれだけではお点前を覚え切ることはできず、ついに、見た目が優しいそうな女性の先生に特訓をお願いすることにしました。そして、「いいですよ」という快い

くさ)さばきなど、どこでも練習できる基本的な所作を教えていただくだけのつもりで出向いたのだが、何とそこには床に一枚の畳が運び込まれ、釜までが準備されていたのである。その後の特訓の厳しさは記すまでもない。

この茶道大会も今年で35回目を迎える。本番に向けて、必死に練習する学生たちを見ていると、今でもあの時の特訓で味わった快感にも似た充実感を思い出す。それは、最後の1%の努力は、それまでの努力の数十倍にも数百倍にも匹敵する、という事実を知ったことだ。人をもてなすということの一つは、自身の努力の証しを披露することなのかもしれない。

(長崎短期大学教授)